

「ひく・ひっぱる・はる」

森山みどり

1. はじめに

「ひく」「はる」は、私たちの日常生活の中でよく使われている基本的な動詞である。そして、この二語は、あるものを長くのばす、広げるという意味において、類似しているのではないかと思われる。また、「ひっぱる」は、「ひく」+「はる」の複合動詞「ひきはる」が変化した形であると考えられ、今日では、一語とみなしてもよいほど頻繁に使われている。私の直観では「ひく」よりもくだけた感じがあるが、使用される場面は、かなり共通性があるように思う。ゆえに、ここでは、「ひく・ひっぱる・はる」の三語を比較検討し、おのこのがどのような動作を表わしているのかを考察したい。

では、「ひく・はる」は、それぞれどんな漢字を用いているか、比較的よく書かれる字を拾い出して整理してみた。

引く-----弓をひく	張る-----弓につるをはる
牽く-----綱などでひっぱってゆく	(広がり伸びる)
援く-----手前の方へひきよせる	貼る-----はりつける
挽く-----力をこめてひく	
曳く-----ひきずる	
輓く-----車をひっぱる	
掣く-----ひきとどめて自由にさせない	
抽く-----ひき抜く	
惹く-----ひきつける	

1969. 三省堂『新漢和辞典』参照

二語とも、最も一般的な「引く・張る」は、弓を扱うときの動作と関係がありそうだ。しかし、「弓をひく」と「弓をはる」では意味が異なり、前者は弓をひきしぼること、後者は

弓につるをとりつけることである。また、「ひく」はいろいろな漢字が用いられ、意味のひろがりを感じさせるが、全体的に「手」と深い関わり合いをもっているようだ。なお、「ひっぱる」は普通ひらがなで書くが、「引張る」とも書く。

参考までに、『日本国語大辞典』(小学館)で語源説を調べたところ、「『ひく』は、ハリキ(張来)の義〔名言通〕、ノヘクル(延)の義〔言元梯〕、ヒはノビのヒまたはヒキ(低)のヒ〔和句解〕、『はる』は、ヒラクアル(開有)の約〔名言通〕、ノヘル(延)の義〔言元梯〕」とあり、二語の間に共通性がみられた。

2. 「ひく・ひっぱる・はる」の意味分析

では、中心的意味の差異はどこにあるのだろうか。

2.1. 他動詞的用法で、「を」格となりうる対象物

動詞	ひもを	布を	根を	ドアを	手を	砂を	水を	空気を
ひく	○	?	○	○	○	×	?	×
ひっぱる	○	○	○	○	○	×	?	×
はる	○	○	○	×	×	×	○	×

まず、気体や砂のような細かいバラバラのものについては三語とも言えないようだ。(上表参照)

(1) ?風呂桶に 水を ひく。

(2) 風呂桶に 水を はる。

(3) 田に 水を ひく。

(4) 田に 水を はる。

液体についてはひけない。ひこうと思ってもこぼれ落ちてしまうからである。但し、パイプやホースなどでどこかから水を移動させてもってくる意でなら、「ひく」「ひっぱる」も使える。上の例文(1)(3)はその意である。ところが(2)(4)では、一面に水を濡らす意であり、(1)(3)とはかなり意味が異なる。

それ以外の対象物について、「ひく」と「はる」を比べてみると、「はる」は、ひも状のもの（糸、綱、弦、ゴム）や、薄い平らなもの（布、紙、板、タイルなど）について、好んで用いられるようだ。

「ひっぱる」は、比較的どんな対象物でもとれるが、2.1.の表で示された中では、「ひく」に近い意味で使われている。しかし、「布をひっぱる」は、「はる」に近い。

(5) ドアを ひく。

(6) ドアを ひっぱる。

(7) 盲人の手を ひく。

(8) 盲人の手を ひっぱる。

例文(6)(8)は、受けとり方によっては、多少ふざけた感じ、あるいは無理に荒っぽくひくニュアンスがある。

(9) 私が 木の根を ひく。

(10) 私が 木の根を ひっぱる。

(11) (木が) 根を はる。 (11') 根が はる。

ここで注意しなければならないことは、(11)の「はる」は、(7)(8)とは、文法的にも意味的にもかなり違うということである。(11')のように自動詞的にも表現でき、「はらがはる」など似た用法で、内から外側に向かって力が働き、外面(木の皮、はらの皮)がひっぱられるようになることである。「ひく」にも、「潮がひく」のような自動詞的用法があるが、今回は、他動詞的用法を中心に分析をすすめるので省略する。

2.2. 「はる」の意味の一要素

上の(11)の例と(2)(4)の「水をはる」の意味を考え合わせると、「はる」の中心的意味の中で、対象物を中心から外側へ伸ばしたり広げたりして位置を占めることが重要なのではな

いかと思われろ。

(12) ビラを はる。

(13) 傘を はる。

(14) タイルを はる。

これらの文においては、対象物の伸びというよりも、設置・接着に重点があるようだ。傘に紙や布をピンとのばしながらはったことから、単に、のりなどではりつける意にひろがったのだろう。

2.3. 「ひく」と「はる」について

次の例文は、似た場面を予想できる。

{(15) 綱を ひく。 (たぐり寄せる意もある)

{(16) 綱を はる。

{(17) 幕を ひく。

{(18) 幕を はる。

(15)~(18)は、綱や幕を一方からもう一方へのばして渡すという意味にとれる。だが、ニュアンスが多少異なり、「ひく」が移動を予想しているのに対し、「はる」は移動とは関係ない。

{(19) 水道を ひく。

{(20) ガスを ひく。 (その他、電話、電気、温泉)

{(21) 陣を はる。

{(22) 店(屋台)を はる。 (その他、テニト、祝宴)

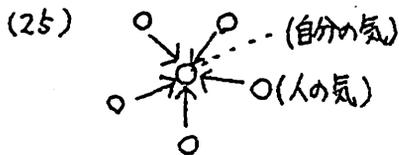
(19)~(22)では、設備するという共通点があるが、「ひく」は線的にどこかからよってくる意、「はる」は面的に一定の広さをもって構える意である。次の例でも、同様の特徴がある。

(23) 声を ひく。 (声を長くのばす----線的)

(24) 声を はる。 (声をはっきりと出す----面的)

(25) (人の) 気を ひく。

(26) (自分の) 気をはる。



そして、派生的用法であるが、(25)は相手の気(外部の対象)を自分の方へ近づけさせようとするのに対し、(26)は自分自身の気を緊張させる主体内部の問題であり、両者には、明らかに差異がある。(上図参照)

2.4. 「ひく」と「ひっぱる」について

2.1.で挙げた用例のほかに次のような文章を比較してみる。

(27) いすを ひく。

(28) ? いすを ひっぱる。(27)と同意ではあまり使われず)

(29) 袖を ひく。

(30) 袖を ひっぱる。

(31) × 上着のボタンを ちょっと ひく。

(32) 上着のボタンを ちょっと ひっぱる。

(33) × 前の人の髪の毛を ひく。

(34) 前の人の髪の毛を ひっぱる。

「ひっぱる」は、ちょっとふざける、あるいはひくべきではないところをひくときにも言えるが、「ひく」にはそれが少ない。このことは、例文(5)~(8)についても認められる。

{ (35) リヤカーを ひく。

{ (36) リヤカーを ひっぱる。(その他、大八車、屋台)

{ (37) 線を ひく。

{ (38) 線を ひっぱる。(書く意のほか、延長の意あり)

{ (39) ろうを ひく。

{ (40) × ろうを ひっぱる。

{ (41) 油を ひく。

(42) ×油を ひっばる。

{(43) ×縮んだセーターを ひく。 (ひきずる意では可)

(44) 縮んだセーターを ひっばる。

「ひくような動作で移動する」「ひきずりながら行く」の意味ではどちらも使える。が、(35)に比べて(36)は、大変そうに聞こえ、映画で言えば人がアップに映される感じがする。(35)の方が、客観的描写で遠景のように思われる。これと、(44)の例とを考え合わせると、「ひっばる」は、抵抗力があると予想される対象物に対してよく使われていることがわかる。

(38)は言えるが俗語的であり、もっと延長するという意味にもとれる。ろうや油では「ひく」としか言えない。油は液体なので、本来対象物となりえないはずであるが、「線をひく」動作との類似から、または、線状に薄くのびしてゆくことから、「ひく」と言われるようになったのだろう。「油をはる」と言うとき、「水をはる」のような意味合いになってしまう。

(45) 犯人を 交番に ひく。 (~が ひかれる)

(46) 犯人を 交番に ひっばる。 (~が ひっばられる)

(47) ×彼女を 部員に ひく。

(48) 彼女を 部員に ひっばる。

(49) ×いやがる相手を 無理に ひく。

(50) いやがる相手を 無理に ひっばる。

(51) ×彼を 悪い仲間^にに ひく。

(52) 彼を 悪い仲間^にに ひっばる。

(45)からは、人や人の心を対象とする場合であるが、何が何でも無理矢理他人を自分の意志に従わせよう(仲間に入れよう)とするときには、「ひっばる」しか使えない。また、悪いことに誘うときにも、相手が抵抗することが予想されるので、「ひっばる」が好んで使われている。

(53) 先輩に ひかれて 入部した。

(54) 先輩に ひっぱられて 入部した。

(53)は、自分が先輩を気に入ったのだが、(54)では、先輩の意志がかなり強く、本人の希望ではなくやむをえず入部したようにも受けとれる。

2.5. 「はる」と「ひっぱる」について

(55) 弦を ピーンと はる。

(56) 弦を ピーンと ひっぱる。

これらは、弦を一点から他の一点へゆるみなくはり渡すこととすると、ほぼ意味は等しい。しかし、(56)は、すでにはってある弦に、もっとそれがのびるような力を加えるという意にもとれる。

(57) 太鼓の皮を はる。 (とりつけること)

(58) ? 太鼓の皮を ひっぱる。

(57)と同意で「ひっぱる」とは、普通言わない。

(59) ぬれた布地を (よく) ひっぱって はる。

(60) ぬれた布地を はって ひっぱる。

はり板に布をはる場合、(59)はよく言うことばであるが、(60)は不自然である。「はってのばす」なら言えるだろうか。このようなときは、「はる」は設置に重点があり、「ひっぱる」は、布自体ののびが重要なのではないだろうか。

(61) X おもちを ひく。

(62) おもちを ひっぱる。 ← お65 →

(63) X おもちを はる。

(44)が「セーターをはる」と言えないことと、このおもちの例から、「ひっぱる」の意義特徴を考えてみる。「ひっぱる」の本来の目的は、移動や設置ではなくて、ひきのばし、

切り離しだと思ふ。もし、そうであるとすれば、「ひっぱる」は、二点が大切になってくる。一点を固定し、別の点からひくか、両側から逆方向にひくということにならう。

3. その他の慣用的な言い方について

3.1. 慣用句の比較

次のように、慣用句として用法が定着したものがある。

「ひく」

- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 客を ひく。 | (11) 辞書を ひく。 |
| (2) 気を ひく。 | (12) 例を ひく。 |
| (3) 人目を ひく。 | (13) くじを ひく。 |
| (4) 注意を ひく。 | (14) かぜを ひく。 |
| (5) 後ろ髪を ひかれる。 | (15) 身を ひく。 |
| (6) (音楽に) 心が ひかれる。 | (16) 値段を ひく。 |
| (7) ひく手 あまた。 | (17) 5から2を ひく。 |
| (8) 血筋を ひく。 | (18) 粉を ひく。 |
| (9) 後を ひく。 | (19) ピアノを ひく。 |
| (10) 尾を ひく。 | |

(1)~(7)は、相手の心や興味を自分の方へ寄せつけようとする事。ひかれる場合は、逆に、自分の心が別のものへ寄せつけられる事。(8)~(10)は、結果が線のように、後まで残ること。(11)~(13)は、多くの中から選り出して自分のものにする事。(14)~(17)は「^ひ退く」に関連しているか。

「ひっぱる」

- | | |
|----------------|------------------------|
| (20) 客を ひっぱる。 | (24) 語尾を ひっぱる。 |
| (21) ひっぱり だ。 | (25)? 会議の時間を ひっ
ぱる。 |
| (22) 辞書を ひっぱる。 | (26) 足を ひっぱる。 |
| (23) 例を ひっぱる。 | |

複合語のため、慣用句は少ない。(20)(21)は、(1)~(7)とほぼ等しく、(22)(23)は(11)~(13)と似ている。が、「くじをひっぱる」は言えない。(24)(25)は、時間をのばすこと。(26)は、マイナスの価値観を伴い、「ひく」は使えない。

「はる」

- | | |
|--------------|--------------|
| (27) 気をはる。 | (34) 横綱をはる。 |
| (28) 強情をはる。 | (35) 二枚目をはる。 |
| (29) 意地をはる。 | (36) からたをはる。 |
| (30) 頑固をはる。 | (37) 駒をはる。 |
| (31) みえをはる。 | (38) 相場をはる。 |
| (32) 欲をはる。 | (39) 犯人をはる。 |
| (33) 向こうをはる。 | |

(27)~(33)は、自己内部の力やみせかけの力を外に現れるようにすること。また(34)(35)も合わせて、自分の評価が下がらないよう努力すること。(36)~(38)は賭けること。

3.2. 複合動詞の比較

- | | |
|---------------------|-----------|
| ひきよせる | ひきつける |
| ひっぱりよせる | ×ひっぱりつける |
| ×はりよせる | はりつける |
| ひきはなす (ひきちぎる) | ×ひきめぐらす |
| ? ひっぱりはなす (ひっぱりちぎる) | ×ひっぱりめぐらす |
| ×はりはなす | はりめぐらす |

「よせる」は対象物から主体へ方向性をもつので、「はる」とは結びつかない。「ひきつける」と「はりつける」は意味が異なり、「はる」はあくまでも「つける」のであり、「はります」ことはできない。「めぐらす」は面的要素があるので、「ひく」とは結びつかず、「はる」と複合している。「ひっぱる」は、複合動詞なので、それ以上はあまり結びつかない。

4. まとめ

今までの分析から、明らかになったことをまとめ、意味記述を試みる。

「ひく」

対象物を主体(動作主)、あるいは主体の意図するゴールに近づけようとして、力を加えること。その結果、対象物が移動したか否かは問題ではなく、ある一点からの一方向の力が重要である。

「ひっぱる」

対象物の異なる二点に(外向きの)逆方向の力を加えること。また、「ひく」と同様に一方向に力を加える場合でも、これに対する抵抗力を予想しているときに多く使われる。従って、弾力性のあるものは伸び、ないものは切り離されることがある。「ひく」よりもくだけた感じがする。

「はる」

対象物(多くは、平らな薄い面状のもの)を広げるようにして、ある場所を占めるように設置すること。移動は予想せず、結果的に一点から遠心的方向への力が働くと考えられるが、この力が「はる」の必要条件であるかは疑問である。「しめる」「ゆるめる」などとも比較する必要がある。

参考文献

- 国立国語研究所『分類語彙表』 1964年 秀英出版
国立国語研究所『動詞の意味用法の記述的研究』 1972年 秀英出版
徳川宗賢・宮島達夫『類義語辞典』 1972年 東京堂出版
日本大辞典刊行会『日本国語大辞典』 1972-76年 小学館
(その他 各社『国語辞典』、『漢和辞典』)

言語経歴：1955年、6月、群馬県前橋市に生まれ、18歳まで在任。以後、東京都目黒区に住み、現在(22歳)に至る。